

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 20日は、高気圧が日本の東に移動し、低気圧が日本海で発生する。
- 21日から22日にかけて、低気圧が発達しながら日本の東を北東に進む。
- 22日から24日にかけて、高気圧が日本海西部から北日本付近を通過して日本の東へ移動する。

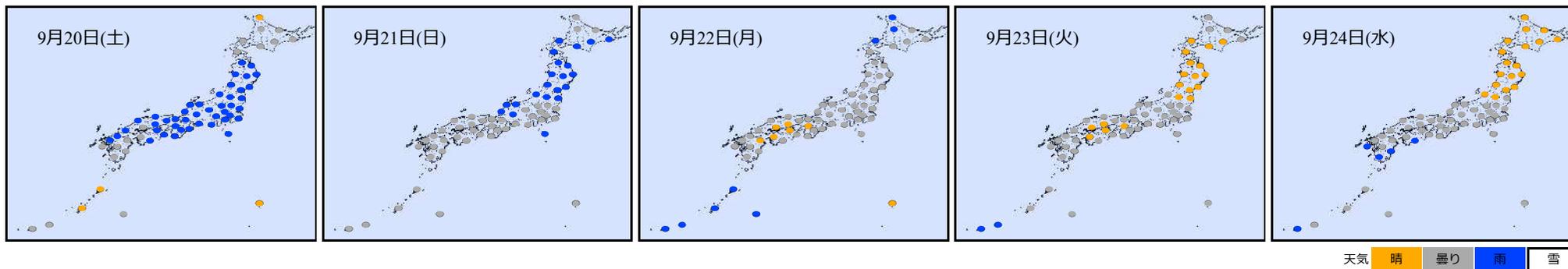
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 20日から21日頃は、北日本を中心に低気圧の発達程度等によっては警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

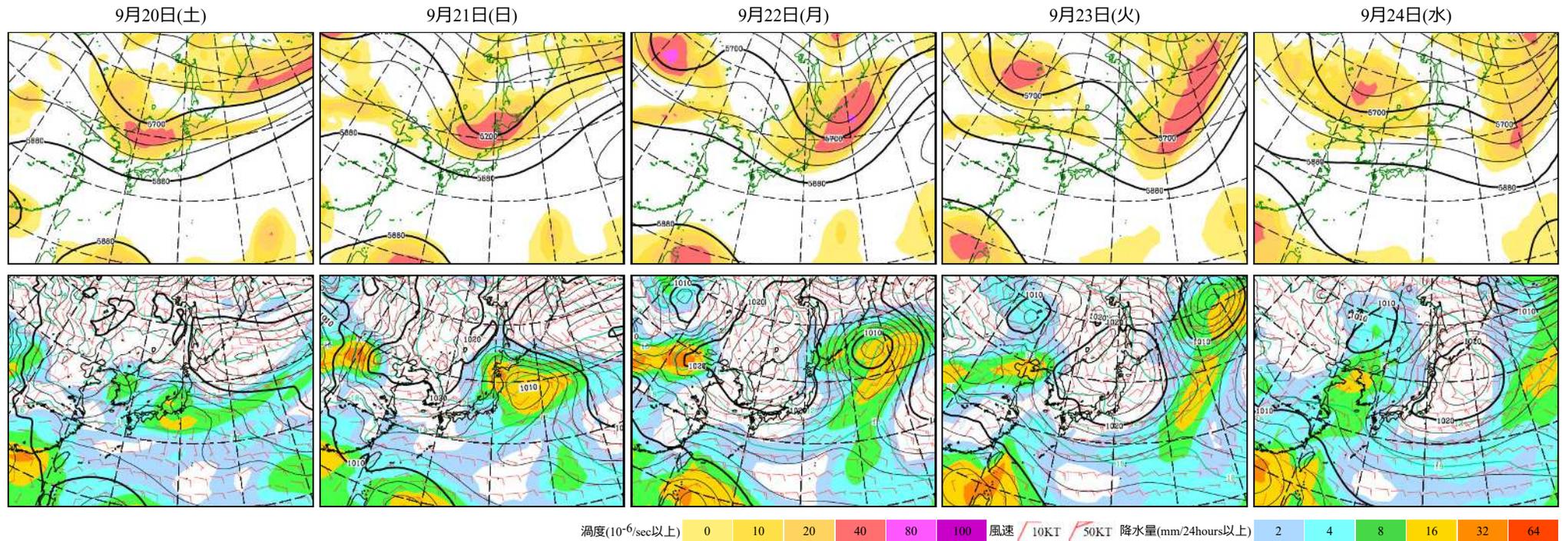
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

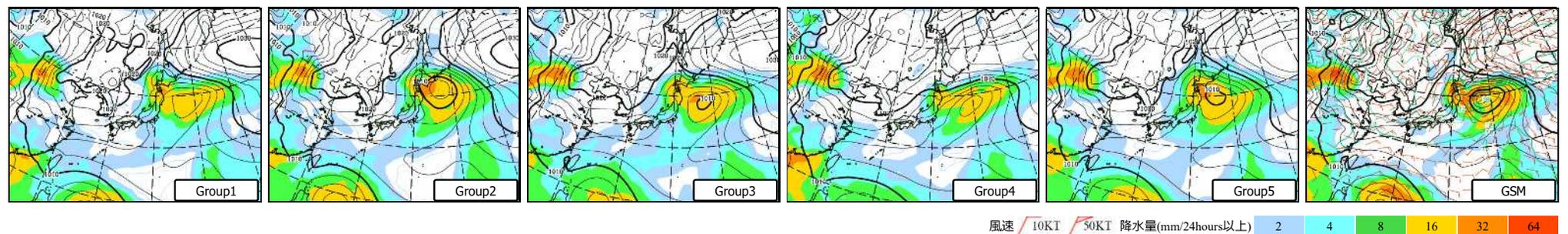


- 北日本は、20日から22日は曇りや雨の降る所が多いが、23日から24日は晴れや曇りとなる。
- 東日本は、雲が広がりやすく、20日と21日は雨の降る所がある。
- 西日本は、雲が広がりやすく、20日と24日は雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多いが、20日は晴れる所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆9月21日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、21日に三陸沖へ進む低気圧が強まりその後の東進が遅くなった。この影響で21日は、北日本で降水確率ガイダンスの値が大きくなった所が多い。
- 500hPaの大きな流れについては各モデルとも概ね一致しているが、期間の後半はトラフ/リッジの位置にバラツキが見られる。
- スプレッドは比較的小さいが、期間の終わりは特定高度線のバラツキが大きくなる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。